

大久保小学校の給食民間委託費 予定価格 5,550 万円に対し入札価格 6,912 万円 不調で予定価格引き上げて再入札

入札結果について

(教育部学校教育課資料に落札率を加筆)

(単位 千円)

学校名	予定価格	最低入札額	業者名	落札率
北楨島小	35,550.0	33,696	ハーベストネクスト(株)	94.8
伊勢田小	40,500.0	40,500.0	(株)レパルト	100
西小倉小	35,550.0	34,948.8	(株)東ステイバル	98.3
大久保小	55,050.0	69,120	不調 (株)東ステイバル	125.6
平盛小	35,550.0	33,949.8	(株)東ステイバル	95.5

市長選挙後、2期目となる現市長のもとで開かれている12月定例会(12月27日開会〜1月27日閉会)に、大久保小学校の学校給食調理等業務委託の入札が不調に終わったことから、市は補正予算を追加で提出する予定です。

宇治市は4月から大久保小、北楨島小、伊勢田小、西小倉小、平盛小の5校の学校給食調理の業務委託を行う準備を行っています。

昨年12月22日、5小学校の29年(31年度末までの委託業者を決めるために公募型指名競争入札を行いました。

入札の結果、大久保小で、応募業者は1社だけ、予定価格を約1400万円も上まわるという結果になり不調に終わりました。そのため市は、急遽、12月議会に増額の補正予算を提案し、公募型指名競争入札で再入札を行おうとしています。

市は当初、補正予算に追加して増額補正の予算を提出し議決を得ようとしていました。しかし、議会運営委員会で委員から、「所管の委員会で経過等の報告をするべきだ」との意見が出され、急遽、1月11日に文教福祉常任委員会が開催され、市から報告がされました。

業者から聞き取り・・・
「市場環境が変わった」
増額して再入札を予定
市は、入札が不調に終わった要因について、「業者から聞き取りを行った。市場環境が変わった」「大規模校への対応ができていなかった」などと説明しました。そして、1回目の予定額を増額して再度入札を行うとの方針を示しました。

委員会では党委員は、「市場の環境が変わったというなら他の4

校も同じではないか、4校も予定価格を見直しして、再度入札をし直さなければならぬのではないかと、「業者のいいなりに予定価格を引き上げるのでは、競争にならない」、「増額するならば積算基準が変わる。どうするのか」、「大規模校というなら、大久保小の生徒数は960人、御蔵山小は1018人だ。平成27年12月に行われた御蔵山小の入札では、予定価格5,040万円に対し4,860万円・落札率91.0%だった。大久保小は御蔵山小より食数は少ない。理屈が合わないのではないか」など、市の姿勢を質しました。しかし市は、まともな説明ができず、「市場環境が変わった」と繰り返すだけでした。

調理業務委託の積算根拠は・・・

市は平成24年度に、給食調理業務民間委託の予定価格の設定について見直しを行いました。

見直しでは、①400食までの基準額を設定し、100食増加するごとに250万円の加算、②ドライシステムを導入している給食室の調理では150万円の加算を行う一としてきました。

今回、食数加算もドライ加算も行ったうえで予定価格でした。業者の言い分で入札額を増額するのであれば、積算根拠を根本的に

見直しする必要がある。



大久保小では、平成20年にも今回と同様に、予定価格4,350万円より入札価格が300万円〜1,000万円も上まわったため不調となり、結局、750万円も増額し5,100万円再度入札が行われました。

予定価格を増額する補正予算は、12月議会閉会日の前日議運に提出される予定ですが、積算基準の変更について、19日の文福委員会で説明をすることになりました。

「民間委託で競争原理が働き効率的」
すでに破綻しています。

市は、平成12年度から学校給食の民間委託を実施してきました。

当初は数社(最高は11社)が入札に参加していましたが、

その後は入札参加業者が減り、3年ごとの入札では、当初に落札した業者が落札し続け、落札率も100%に近く、市は予定価格を引き上げています。業者いいなりにそのたびに予定価格を引き上げて、競争性があるのでしようか。

日本共産党宇治市議員団だより

2017年1月22日号
tel: 20-8749 fax: 24-7884